独立工兵第三十八聯隊略歷

聯隊長　陸軍大佐　五十嵐庄七

年月日	概要
昭六、五、一	軍令陸甲第三十六号独立工兵第三十八聯隊編成下令
五、一	編成業務着手
六、三七	中華民国河北省邯鄲県邯鄲に於て編成完結
六、三〇	中華民国河北省邯鄲県邯鄲附近の警備（將校九名、下士官兵五七三名）
七、四	中華民国蒙疆聯合自治政府張家口特別市に移駐
七、七	中華民国蒙疆聯合自治政府張家口附近警備
一八、七、八	中華民国蒙疆聯合自治政府張家口附近警備
一九、三、二	補充人員兵一二四名（概数）
一八、一三、一七	補充人員兵二九名
一三、二七	交代帰還下士官一五名、兵一三八名、計一五三名（概数）
一九、一、二〇	中華民国河南省開封移駐
三、五	中華民国河南省開封附近の警備
三、六	京漢作戦に参加
四、一七	
四、一八	
五、三一	

0995

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭一九、六、一	中華民国河南省洛陽附近洛河の架橋作業
六、二三	
六、一四	宗漢沿線掃蕩戦参加
七、七	
七、八	湘桂作戦に参加
三、七	
九、三三	補充人員四五名
九、二六	補充人員六七名
九、二三、八	南部粤漢打通作戦に参加
二〇、二、八	
三、一	湘西作戦に参加
六、一〇	
六、一三	補充人員　将校七名
六、二二	中華民国湖南省易俗河――新市間の道路作業
八、一三	
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定締結
一〇、二	湖南省長沙県橋頭地区に移駐
一〇、二〇	中国軍に協力長沙―衆橋間の道路補修作業
一二、三二	
二一、五、一〇	内地帰還の為湖南省長沙県橋頭地区出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外

年月日	概要
昭二、六、二九 七、八	上海出帆 神奈川県浦賀上陸

0997

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信才五聯隊略歷

聯隊長　陸軍中佐　助廣俊藏

年月日	概要
昭一五、二、二九	軍令陸甲才五号により電信才五聯隊編成下令
四、三	中華民国華北省北京に於て編成完結
九、一、三一	聯隊長陸軍中佐助廣俊藏以下将校五一名下士官三四名兵一四〇七名
五、二一	聯隊長陸軍中佐　児玉光雄
	湘桂作戦参加のため北京より湖南省に移駐長沙衡陽に駐留す
八、一五	湘桂作戦南部粤漢打通作戦湘西作戦参加
	下士官二名、兵二九八名　計三〇〇名　補充
	移駐作戦参加以後交代帰還人員なし
一五、四、三	編成完結後中華民国河北省北京に本部を置き北京を中心とする華北方面軍軍幹線通信網の保守通信実施に任ず
一九、四、	湖南省方面作戦参加のため北京を出発湖南省に移動新市長沙南益市衡陽等に本部を置き通信網の構成並に通信実施に任ず
二〇、八、一五	停戦後部隊主力を長沙県橘頭に一部を臨湘県聖渡に集結
自一五、四、三　至一九、七、二四	華北方面軍隷下

0998

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭一九、七、三五 至九、九	第一一軍隷下
九、一〇 一〇、三〇	第六方面軍隷下
一〇、三一 終戦	第二十軍隷下
二一、五、一一	復員帰還のため集結地長沙県橘頭を出発
二一、五、三一	岳州出発水路上海に下航
六、三	上海到着
六、一六	上海出帆
六、二七	佐世保上陸

0999

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才六師団架橋材料中隊略歴

年月日	概要
昭一三、八、二四	軍令歴甲才　号に依り才六師団架橋材料中隊に編成下令
八、二四	編成業務開始
九、二	編成完結
九、八	内地港湾出発
九、二七	山海関通過
自一〇、一三	山東省静海県濁流鎮に駐留
至一三、三	済南攻略戦参加爾後済南駐留
自一四、七	徐州攻略戦参加
自一三、三八	漢口攻略戦参加　後漢口駐留
至一四、一〇	南昌攻略戦参加後江西省武寧に於て駐留
一五、四	宜昌作戦参加後湖北省荊門県沙洋鎮附近駐留
自一六、四	湖北省鍾祥県安陸に駐留
至一七、四	江北作戦其他討伐参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭一六、七 至昭一六、十一	才二次長沙作戦参加後武昌駐留
自一七、六 至一八、四	湘贛作戦参加後浙江省蕭山県に駐留
自 至九五	浙江省杭州に於て駐留
自一九、七 至二〇、三	衡陽作戦参加後湖南省衡陽附近駐留
自二〇、六 至二〇、八	湖南省長沙附近駐留
自二〇 至二一、四九	湖南の長沙岳州地区駐留
二〇、七、二	上海出帆、八月一日浦賀上陸八月三日復員式挙行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十六師団第一渡河材料中隊略歴

中隊長　陸軍中尉　杉本勉

年月日	概要
昭一三、七、二七	動員下令
八、八	動員完結（京都市醍醐に於て）
一七	宇品港出発
一九	釜山港上陸
二二	安東通過
二一	山海関通過
自九、三 至一二、九、六	津浦沿線の戦斗に参加
自九、七 至九、八	馬厩及滄州附近の攻撃参加
自一二、三五 至一三、一、二九	杭州に於ける警備勤務
自二、三〇 至二、二二	上海に於ける警備勤務
自六、一 至七、一七	上海附近の警備
自一四 至四、五、二一	粤漢線方面の勤務

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自四、五、二六 至七、二	新墻河以北岳州方面の警備
自四、一二、一一 至四、一二、八	第二次粤漢線方面の警備並戰斗
自四、一三、九 至五、二、三	冬季作戰參加
自一五、二、四 至四、二、二	冬季作戰以後の警備
自一〇、八、一 至一〇、二、八	襄東西地区支隊作業參加
自一〇、二、九 至一二、一〇	漢水作戰參加
自一六、一、二〇 至一六、三、三	豫南作戰參加
自一六、六、一 至一七、三、二	襄東地区の支隊確保作業
自一六、二、一一 至一七、三、一	第二次長沙作戰參加
自一八、四、一 至一八、六、三〇	江南殲滅作戰參加
自一〇、七、一 至一〇、一九	湖北省江陵縣草市附近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自九、一一 至四、一六	湖北省江陵県草市附近の警備
自五、一二 至二、七	湘桂作戦参加
自二〇、三、二一 至四、六	湖南省衡陽県土谷塘附近の警備
自四、七 至八、一三	湖南省衡山県菅洲附近の警備
三、五、二七	湖南省岳陽県岳陽出発
六、七	湖北省黄陂県揚子出発
六、一七	江蘇省上海着
六、二七	上海港出帆
六、六	浦賀港上陸
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戦車第二師団防空隊略歴

年月日	概要	場所
昭一七、九、二〇	軍令陸甲第四二号に依り編成完結	錦州錦県
八、一、一五	満州東安省勃利に移駐	
二、七	兵戦車第二師団防空隊長陸軍少佐小田切実、補戦車第二師団防空隊長陸軍中佐土屋善喜	東安省勃利
一九、三、一二	戦二師作命甲第六号に依り戦車第二師団長の隷下を脱し中国派遣軍総司令官の隷下に入らしめらる	
三、一五	満洲東安省勃利出発	
三、一八	満華国境山海関通過	
三、二一	南京着	
三、二一	中総作命甲第五九八号に依り旭集団の戦斗序列に入らしめらる	南京
三、二二	南京出発	
三、二二	安衛省蕪湖着	
三、二四	安衛省蕪湖出発	
三、三一	大沼県石灰窯着	
六、八	旭作命甲第三号に依り石灰窯出発	
六、一二	蒲折県蒲折着	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、六、一六	蒲折県蒲折出発
六、二七	岳陽県岳州着
七、三	湘潭県湘潭着
九、一九	衡陽県衡陽着
一〇、二七	兵戦車第二師団防空隊長陸軍中佐土屋善喜、補戦車第二師団防空隊長陸軍中佐西原龍夫
一〇、三一	統作命甲第二六号に依り旭集団の麾下を脱し桜集団の戦斗序列に入らしめらる
二〇、八、一四	停戦詔書発令
八、二八	復員下令
八、二七	衡陽県衡陽出発
二一、五、三〇	上海港出発
六、六	仙崎港上陸
	復員完結

衡陽県衡陽

同

同

同

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十五野戦道路隊略歴

部隊長　陸軍少佐　小川哲斉

年月日	概要
昭五、三、二八	舞鶴車砲兵連隊に於て部隊編成に着手
三、三〇	編成完結
三、三	舞鶴出発
三、四	門司到着同地に於て乗船準備及隊属貨物及人員搭載完了
三、七	門司出帆
三、一二	揚子江口通過
三、一三	浦口に上陸中国派遣軍総司令官の隷下に入る
三、二四	武昌に上陸、第十一軍第二工兵司令官の指揮下に在りて湘桂作戦の準備行動に任ず
三、三〇	作戦参加のため武昌出発集結地湖北省趙李橋に向ひ分進す
	第二十七師団長の指揮下に入り該部隊作業隊材料隊として道路構築用諸材料の支付に任じつつ三眼塘通城平江新市を経て長沙に向ひ前進す
七、一五	再び第二工兵司令官の指揮下に入り長沙附近に位置し道路橋梁の構築並補修作業に任ず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九・一〇・一	第六方面司令官の隷下に入る
一〇・三一	第二十軍司令官の隷下に入る　引続き前任務続行
一二・二三	長沙出発湖南省衡山経由
一二・二七	衡陽近郊に到着
二〇・二・中	反転衡山に位置し道路構築並補修作業に従事
三・下	編成改正の結果将校以下三十九名第二警備隊に転出せし出
四・二八	部隊長更迭部隊長陸軍小佐小川哲斉名古屋連隊区司令部附に転出、第百十六師団兵器部々員陸軍少佐興野直夫着任
五・初	再び衡陽附近に位置し南部粤漢打通作戦及湘西作戦に参加道路橋梁補修に任ず
五・下	本土兵備要員として将校以下十三名転出せし出
七・下	反転の命を受け転進途次衡山附近の道路補修作業に任ず
八・一四	停戦の命を受く
八・下	引続き反転行動し新市新橋附近の道路橋梁の補修に任しつゝ岳州に集結す
	爾後湖南省臨湘県臨湘附近に於て復員業務及中国側命令に依り道路構築作業に従事す
二一・四・一五	帰還命令に基き臨湘出発
二〇	岳州に集結乗船出発す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、五、四	上海に到着、乗船準備に任ず
五、二四	乗船
二五	出発
二九	博多上陸したるも船内にて他部隊に於て天然痘患者発生したるため隔離松原外二寮に宿営
六、一四	隔離解除同日復員式挙行召集解除をなす

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百八十四兵站病院略歴

年月日	概要
昭三〇、三、一〇	軍令陸甲第十八号第百八十四兵站病院編成下令
三、一	編成業務着手
三、一〇	中華民国湖南省長沙県長沙に於て編成完結
三、一〇	湘西作戦に参加（長沙病院開設業務）
六、一〇	湘西作戦後に於ける警備（長沙病院開設業務）
六、二二	停戦詔書発布
九、二	復員下令
八、四	長沙県桃江市霞疑郷病院を閉鎖
八、八	内地帰還の為上海へ移動
二、五、九	上海に於て病院開設
五、九	第二十軍司令部へ軍医将校一名転出
五、三〇	復員の為上海出帆
二、三、三〇	内地浦賀港上陸
二、六、一四	復員式挙行
七、五	
七、三	
七、一五	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才百八十五兵站病院略歴

病院長　陸軍軍医中佐　矢口馨

年月日	概要
昭二〇、三	軍令陸甲才十八号才百八十五兵站病院編成下令
三、一	編成業務着手
三、一〇	中華民国湖南省衡陽県衡陽に於て編成完結 病院長陸軍軍医中佐矢口馨以下将校二四名　准士官　下士官五三名　兵一九三名
五、一九	才百二十七兵站病院より歯科医将校（見習士官）一名転属に依り編入
七、一	才二十軍貨物廠より薬剤尉官（見習士官）一名転属に依り編入
七、五	中華民国湖南省岳陽県冷水鋪に移駐（同地病院開設）
八、二九	総参一才七〇五号及才七〇八号に依り華中防疫給水部才十二支部及才十三支部の一部転属により編入 才十二支部陸軍軍医少佐隈元国夫以下将校五名准士官下士官二二名兵八八名 軍属一四名才十三支部陸軍軍医少佐杉浦秀俊以下将校六名下士官十四名兵五二名軍属一〇名
九、一〇	薬剤尉官一名を華中衛生下士官候補者隊に転属
九、二三	総参編等八二五号に依り中国派遣軍防疫部才二工作班転属に依り編入

24 5 3 19 9 0 27

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、二三	陸軍軍医大尉武藤友美以下将校三名下士官八名兵四四名
一二、三〇	勅令一才八七四号に依り退院患者より転属に依り編入兵三名（復員規定才一七条該当）
二一、一、二五	独混一七旅作命甲才一〇五号に依り退院患者中より転属に依り編入兵一〇名（復員規定才一七条該当）
	統参電才一三六号に依り将校一准士官下士官四兵一二軍属一計一八名才百二十八兵站病院に転属
一、二八	軍医尉官一名二十軍人高才一〇号に依り才五十三野戦道路隊に転属
五、一八	才二十軍作命に依り退院患者中より転属により編入下士官兵各一名（復員規定才一七条該当
五、二五	湖南省岳州出発（復員帰還）
六、五	湖北省漢口出発
七、五	江蘇省上海出発
七、一三	浦賀港上陸（一部は患者護送員として七月一一日佐世保上陸）
七、	部隊復務整理完了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才二十四患者輸送隊本部略歷

年月日	概要
昭二〇、三、三一	軍令陸甲才十八号才二十四患者輸送隊本部編成下令
三、三一	編成業務着手
三、三一	中華民国湖南省衡陽県衡陽編成完結
二〇、三、三一	湘西作戦参加（患者輸送業務）
六、一〇	
三、三一	患者輸送業務に従事
八、一〇	
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	復員下令
九、二	停戦協定締結
二一、五、九	内地帰還のため駐地出発
五、三〇	集結地到着（上海）
七、五	上海港出帆
七、一三	浦賀港上陸
	復員完結

1013

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

旧二十軍病馬廠略歴

年月日	概要
昭二〇、三、三一	中国派遣第六方面軍兼下第二十軍直轄部隊として別紙第一部隊編成表に基き、中華民国湖南省衡陽市外白砂州に於て其編成に着手
二〇、一、二〇	部隊編成完結せるも部隊編成要員たる主力は野戦重砲兵第六聯隊
四、下	右部隊出発
一、四、	到着（該要員到着迄第十九兵站病馬廠派遣人員を以て業務遂行）
一、二〇	部隊編成要員の主力は昭和二十年一月四日野戦重砲兵第六聯隊留守隊に吾集又は転属せられたる熊本師団、久留米師管廣島師管たる西部軍管下の将兵にして、陸軍獣医大尉清藤泰蔵外二四九名は一月二十日小倉市を出発し中国南京に到着後健康者を以て華北より漢口間の大陸馬輸送を実施し輸送間戦死者三名を生じ又病弱者は南京―九江間の船舶輸送及九江―武昌間の陸路輸送により
三、二五	漢口に集結
三、二八	第二十軍病馬廠長沙支廠に到着し、本廠及各支廠出張所等に分進業務に従事す。
四、一八	右に依る内地よりの要員以外の廠長、獣医部将校獣医務下士官は第六方面軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	司令部、第二十軍及第十一軍各部隊より転属せられ充足す
昭二〇、三、三一	編成完結せるも、前項要員到着せざる為第十一軍、第二十軍関係転属者、及第六方面軍司令部より転属将校並に第十九兵站病馬廠より派遣将兵とを以て第二軍作戦区域内にある第十九兵站病馬廠支廠及出張所の業務を交代続行し
四、中	要員主力到着するや、獣医大尉池田利貫を長沙支廠長に獣医中尉庄司武を宝慶支廠長に獣医少尉大津留公を易俗河出張所長に獣医少尉阿部正を新市派出所長に任命し以下所要人員を附し病馬の収療業務を、逼迫部隊の後尾援助等に従事せしめたるも軍が撤退作戦計画に基き宝慶支廠を撤収し長沙支廠を本廠に衡陽本廠を支廠に改め長沙支廠長池田大尉を衡陽支廠長に変更し更に岳州支廠を開設せるや終戦となれり
	終戦後の概要
三、三、三	終戦となるや部隊の支廠及、出張所は、長沙並に岳州の二ヶ所に集結し中国陸軍の接収を受け、岳州支廠は池田大尉以下全員中国陸軍第十八軍第十八師に、長沙本廠は部隊長以下全員中国陸軍第十八軍獣医隊に徴用せられ池田大尉以下は漢口地区に部隊長以下は武昌に於て復員帰還乗船命令の発せられたる昭和二一年三月二三日迄協力を続行す
	人員移動の概況

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、三、二四 二五	(1) 転属 本土決戦要員として獣医少尉大津留公外、獣医将校四名獣医務下士官十三名計十八名を獣医大尉庄司武を電信第五班隊に、獣医務下士官十葉武外五名を第二十軍司令部に獣医中尉深坂公外四名を第六方面軍司令部に転属せしめたる外陸軍主計伍長宮野剛郎以下十二名を現地召集解除す (2) 死亡者 終戦日迄は戦死者三名戦死者一名計四名の死亡者ありたるも終戦後中国陸軍の協力のため諸種なる悪条件と急変せる食、住、作業等のため入院患者多数を発生し部隊上海乗船時迄死亡者三十六名を数へるに到れり (3) 入院者 前項条項に依る協力、終戦前の戦争栄養失調症等の末状復のため乗船時に於ける入院患者は獣医少尉古澤十一以下三十一名と及れり 六、復員帰還 中国陸軍第十八軍に於て協力中の(武昌)本廠員及第十八軍第十八師に於て協力中の(漢口)池田派遣隊は乗船命令発せらる 漢口揚子に集結 出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、三、三一	南京到着上海に前進せんとする時同一聯隊部隊に発疹チブス発生し隔離を実施せらる
四、二〇	南京出発
二一	上海に到着呉淞兵舎に在りて復員乗船を待機
二五	上海にて乗船
五、二	鹿児島港に上陸
五、二	除隊召集解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍野戰兵器廠略歷

廠長　陸軍大佐　土肥直一

年月日	概要
昭五、九、八	陸軍機密第五二一号仮編第三十二野戰兵器廠編成下令
九、二一	編成業務着手
九、二五	東山省牡丹江編成完結
	廠長陸軍大佐土肥直一以下將五〇名下二三六名兵九〇三名
二、三五	中華民国湖南省衡陽県衡陽に移駐
自一〇、五 至一二、三一	湘桂作戰參加
	死亡、將校及び下士官及び兵二　計二名
自一、一 至二、二八	南部粤漢打通作戰に參加
	死亡　將校及び下士官及び兵三　計三名
自三、一 至六、一〇	湘西作戰に參加
	死亡　將校及び下士官二　兵三　計五名
三、二四	陸亜機密第六五号第二十軍野戰兵器廠編成下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、三、二五	編成着手
三、三一	湖南省衡陽県衡陽編成完結
	厳長陸軍大佐土肥直一以下將六三名下二四四名文一一八七名
八、一四	中華民国湖南省長沙県長沙に移駐
八、二五	復員下令
二一、五、一九	中華民国湖南省益陽県益陽に移駐
五、二四	中華民国湖北省漢口に移駐
六、一四	中華民国江蘇省上海に移駐
六、二六	内地帰還の為上海出発
七、五	浦賀港上陸
七	復員完結

1137
244
53
149

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍野戰自動車廠略歷

廠長　陸軍大佐　松本貫元

年月日	概要
昭一九、九、二五	陸亜機密第五二一号に依仮編第三十三野戰自動廠編成
九、二五	哈爾浜に於て編成完結（將校五〇名 下士官一八九名、兵一一六二名　計一四〇一名）
一一、二五	中華民国湖南省衡陽県衡陽に到着
一一、二〇	第二次湖桂作戰参加
一二、七	第二十軍司令官の指揮下に入る
一二、一〇	耒陽支廠、郴県出張所開設
二四、	廠兵力の到着と共に左記支廠出張所業務を第十一軍野戰自動車廠より継承す
二八	左記
	易俗河支廠
	長沙出張所
	衡山〃
	祁陽出張所
	零陵出張所

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭一五、一二、一八 至昭二〇、二、二六	南部粤漢打通作戦参加
二〇、三、一四	宝慶支廠開設
三、三一	軍令陸甲才十八号に依り第二十軍野戦自動車廠編成完結
三、三一	衡陽に於て編成完結 廠長陸軍大佐松本貫元以下将校五一名、下士官二二五名、兵一四四八名、 計一、七二四名
三、一 六、一〇	湘西作戦参加
四、一〇	零陵出張所撤去
七、八	宝慶支廠撤去
七、二三	祁陽出張所撤去
七、二八	廠本部衡陽より湖南省長沙県長沙に移駐
七、二八	衡陽支廠開設
八、一〇	耒陽支廠撤去
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定

1448
225
51
1724

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、五	衡陽支廠撤去
九、六	衡山出張所撤去
九、八	易俗河出張所撤去
二、五、二二	長沙県霞凝出発
五、一七	岳州到着
六、一五	上海到着
	内地帰還の爲上海港出帆
	佐世保港上陸
	復員式挙行
	復員完結
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍野戦貨物廠略歴

部隊長　陸軍主計中佐　網田園治

年月日	概要
昭五、九、二五	廠は新京に於て第十一軍所属仮編第三十二野戦貨物廠として編成完結（被服移動修理班二個反勤務中隊欠）
二〇、三、三一	編成改正第二十軍野戦貨物廠と改り勤務中隊一個を附属せしめらる
一九、九、二五	新京に於て仮編第三十二野戦貨物廠編成完結
一〇、二	国境通過
二、八	全県に於て第一一軍に進反
一一、一三	桂林着会地支廠開設中の処
二六	第二十軍の指揮下に入らしめられたるを以て
三〇	桂林発
一二、五	衡陽に到着集結完了し第十一軍野戦貨物廠より
一三、二	零陵長沙間の業務を継承し粤漢打通両作戦に参加すると共に現地並通過部隊の補給に任ぜり
二〇、七、	主力の転進並第十一軍野戦貨物廠への業務引継を命ぜられ
七、一九	衡陽出発長沙に於て業務引継の上

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八、九	長沙出発
八、一五	漢口到着才六方面軍司令官の指揮下に在りて武昌地区接収業務に従事
二、三七	主力は華容鎮地区に移動集中し
四、二一	全地出発
二九	上海到着
五、二三	一部上海乗船
六、一	博多上陸
	同日除隊（召集解除解備）
一〇	衛生材料部及獣医資材部は十月主力と分離し中国側武昌衛生材料庫並全獣医材料庫要員として留用せられ接収業務に従事す
五、八	武昌出発
二八	上海到着主力と合体
六、一四	上海乗船
二〇	鹿児島上陸
二〇	残務整理者を除き除隊（召集解除解備）
二四	残務整理者復員本部到着
二四	除隊（召集解除）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

水上勤務第四十三中隊略歴

中隊長　陸軍中尉　田部

年月日	概要
自昭一九、二、二六 至二、二八	編成準備
二、二九	動員完結
三、九	中国派遣の馬門司港出発
三、一四	南京に上陸、中国派遣軍総司令官の隷下に入る
三、一七 四、二六	蕪湖ー武昌間第三師団軍馬輸送業務に従事
四、二六	第二船舶輸送司令部漢口支部長の指揮下に入る
五、一〇	中国派遣軍総司令官の隷下を脱し第十一軍司令官の隷下に入る
自一九、四、二九 至二〇、二、二八	湘桂作戦に参加、民船九ケ船団（三九九隻）の配属を受け警衛兵として漢口ー衡陽間の軍隊及軍需品の水路輸送業務に従事
自一九、八、二四 至二〇、三、三一	民船一ケ船団を長沙に於て鉄部隊に貸与湘江河及劉陽河の鉄橋架橋及器材運搬作業に従事
一九、九、一〇	第十一軍司令官の隷下を脱し第六方面軍司令官の隷下に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭五、二、五	第八舟艇隊（機付舟十七隻）を編成
漢口―岳州―衡山間の	
至二〇、九、二	軍隊及軍需品の水路輸送業務に従事
自二〇、三、一 至九、二	岳州―衡山附近の警備並に船舶輸送業務に従事
自二〇、七、一〇	民船四ヶ船団の追加配属を受け警乗兵の編成替を為し岳州―
至九、二	長沙―衡陽間の水路輸送業務に従事
自二〇、三、一 至九、二	岳州―衡山附近の警備並に船舶輸送業務に従事
自二〇、七、一〇	民船四ヶ船団の追加配属を受け警乗兵の編成替を為し岳州
至二〇、九、二	長沙―衡陽間の水路輸送業務に従事
九、四	民船十三ヶ船団を第二船舶輸送司令部湖南支部に引継す
九、五	中隊主力は長沙を出発す
九、一七 九、二〇	民船警乗兵及第八舟艇隊逐次武昌に集結、全員の集結完了す
一〇、一 二、二〇	第六戦区第十二日本官兵管理所に入所
二、三、一 二、二三	移駐の為武昌を出発湖北省黄山岡県団風鎮に集結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭二〇、二、四 至昭二一、五、七	第六戦区第十三日本官兵管理所に入所
二、五、八 五、一三	内地帰還の為団風鎮を出発上海に集結す
五、二三	上海出発
五、二九	博多港上陸
	復員式挙行　部隊長陸軍大尉田部義幸以下四〇〇名博多に於て召集解除
	死亡　計
	入院患者　二〇名
	死歿者　六六名
	転属者　二五名
	内地帰還者　四〇〇名
	総員　五一一名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十六野戰貨物廠略歷

年月日	概要
昭一九、三、一五	関参編第　号に依りろ号演習参加のため第十六野戰貨物廠第二被服移動修理班編成下令
一九、三、一五	編成着手
三、二七	牡丹江省東寧県城子溝に於て編成完結
三、二八	屯営出発
四、一	山海関通過、同日中国派遣軍の指揮下に入る
四、七	漢口通過同日華中派遣軍の指揮下に入る
四、一五	湖口通過第十一軍の隷下に入る
四、二一	湖北省夏口県漢口に移駐
五、一八	湖北省蒲圻県嘉陽到着
自一九、五、一九 至五、二七	被服補修作業実施
六、二九	趙李橋到着
六、三〇 七、二七	被服補修作業実施
九、二五	湖南省長沙県長沙到着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭五、九、二六	被服補修作業実施
二、五、一五	湖南省耒陽県耒陽到着
二〇、一、一	被服補修作業実施
一、一二	永豐到着
一、一三	永豐に於て被服補修作業実施
二、一九	湖南省長沙到着
二、二〇	復員下令
二、二七	漢口帰着同日第三十四軍野戦貨物廠に配属
八、二三	内地帰還のため漢口出発
八、二五	上海港出帆
九、一七	浦賀港上陸
二一、四、二二	内地解除
六、一九	
六、二八	
六、二八	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

水上勤務第五十四中隊略歴

部隊長　陸軍大尉　野見山　武男

年月日	概要
昭一九、二、二五	衛成人員　将校四、軍医官一、下士官兵五〇六計五一一名
三、三	動員第一日
三、九	動員完結
三、一四	中国派遣の為門司港出発
三、一五	南京上陸
四、三〇	蕪湖―武昌間第三師団軍馬輸送業務に従事す
四、三〇	第二船舶輸送司令部漢口支部長里見少将の指揮下に入る
自　五、一	湘桂作戦に参加民船徴発兵として漢口―衡口―衡陽間の軍隊及軍需品の水路輸送業務に従事す
至　九、八	
自五、九、一五	第七舟艇隊（機付舟艇）を衛成漢口―岳州―衡山間の軍隊及軍需の水路輸送業務に従事す
至二〇、九、一九	
九、一九	武漢地区集結の為中隊主力は岳州出発
九、二一	漢口到着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、三	第六戦区第一官兵管理所揚子鎮第一分哨に入所
二、二〇	湖北省黄山岡県田風鎮に移駐の為揚子鎮出発
二、二四	田風鎮に到着、第六戦区第十三日本官兵管理所に入所
三、五、八	内地帰還の為田風鎮出発
九、一三	上海に集結
五、二三	上海出港
五、三〇	佐世保港上陸
三、一	復員式

矢力

帰還者三七〇名入院三三名生死不明二名死亡九二名

現地吉集解除二名転属者一二名

残務整理者

陸軍大尉　野見山武男

軍曹　小峰　初実

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp